

商店街活性化事業計画の概要

地 域

東京都品川区

認定日

平成21年 10月9日

事業名: パルム独自のパイロットプロジェクトの実践による若手リーダーの育成と新しい都市型商店街の再生モデルづくり

事業者名: 武蔵小山商店街振興組合(東京都品川区)

事業実施期間 平成21年10月～平成24年10月

商店街活性化事業の概要

・「食と健康」「ユニバーサルサービス」の提供をテーマとして、イベント事業(朝市・アウトレットフェア)、Webによる情報発信、若手リーダー育成のための実践的OJT事業等に取り組むことにより、地域社会の抱える課題の解決に貢献するとともに、「地域に支持される都市型次世代商店街」のモデルとなることを目指す。

商店街活性化事業の内容

地域住民ニーズ

・地域住民へのアンケート調査によると、「安全で安心なまち」、「公共広場・公園の整備、カフェや屋台が並ぶ裏路地の演出」、「きめ細かな顧客サービスの充実、祭りや多彩なイベントの実施」など、商店街に対して『安全で心地よい環境やふれあいの創出』などに関する要望が高い。
・一方、商業者は「品揃えの工夫や独創的な顧客サービスの実施」など営業努力を実施しているものの、パルム(=武蔵小山商店街)全域の魅力アップに至っておらず、地域住民の意識がパルムから離れつつある。

実施計画の主な内容

・まちづくりの専門家や有識者を講師として招き、商店街のまちづくり委員会メンバーを中心とした若手リーダーを対象にしたセミナーを開催。また、『パルム・キッチンクラブプロジェクト』、『パルム・ユニバーサルクラブプロジェクト』の2つのパイロットプロジェクトを実際に立ち上げ、商店街が地域のコミュニティの中心となってまちづくりを牽引できる若手のリーダー達を育成する。
・地域の住民にとって魅力のある、産地(生産者)と連携した生鮮食品等の朝市と、店主にとってニーズの高いアウトレットフェア(在庫一掃セール)を合わせて開催する。また、商店街として「健康で安心できる暮らし方や持続可能な環境の維持を大切にする暮らし方」を推奨、Webページを活用して広めていく。
・高画質の防犯カメラを設置し、警察との効果的な連携を行うことで、犯罪の無い安全で安心なパルムを実現する。

商店街活性化事業計画の目標

・平成24年の商店街販売額を平成19年の192億円から219億円に、27億円高める。
(2万人/日×3千円/人×365日=219億円)
・その他、まちづくりを担う中核的な人材の育成、業態開発ノウハウの伝播による店舗改革の促進(意識改革の促進)、パルムに対する顧客意識の変革と商店街のコミュニティ機能の回復を図る。

